高等部道徳科学習指導案 『生徒会選挙』

**１　主題名**　　きまりに向き合う　Ｃ-(１０）　尊法精神　公徳心

**2　ねらいと教材**

（1）ねらい

・きまりに向き合う

・学校の一員としての自覚をもち、集団の中で様々な考えがあることを認め、より良い校風をつくるために考えることができる。

・集団の中の自分の役割と責任を自覚し、集団生活の充実に努めることができる。

（2）教材　　生徒会選挙　（P52-55）

**３ 主題設定の理由**

本主題は、以下の中学校新学習指導要領「特別の教科 道徳」（平成２９年３月告示）の内容項目のねらいを受け、個々の生徒の知的障害の状態、生活年齢、学習状況及び経験等に応じるとともに、青年期の特性を考慮して、健全な社会生活を営む上に必要な道徳性を一層高めるために、適切に指導の重点を定め、指導内容を具体化した。

|  |
| --- |
| Ｃ　主として集団や社会との関わりに関すること　（１０）　尊法精神　公徳心　集団の一員としての自覚をもち、多様な考えを認めあえる人間関係を築くこと集団の中での役割と責任を自覚し、より良い集団生活を送るために思案すること |

（1）ねらいとする道徳的価値について【価値観】

学校は、公的な集団生活の場であり、自立した社会生活を営む前段階の小さな社会である。また、学校にはそれぞれ独自の校風があり、これまでの先輩や保護者，地域の人々によって培われたものである。そのことを理解したうえで、よい良い校風を目指して思案し、自己の考えをもつことが大切である。

さらに、様々な意見に触れることで、多様な考えを認め合える人間関係を築き、より良い学校生活につなげたい。また、集団の一員として、自己の役割や責任を自覚することで、集団生活の充実を図り、将来の社会生活への足掛かりとしたい。

（2）生徒の実態について【生徒観】

物事の背景や流れについて理解し、自分の意見を簡単な言葉で表出することができる生徒を対象とする。字を書くことが苦手な生徒に対しては、話し言葉での表現を代筆するなどの配慮を行う。

グループ協議の場では、適宜言葉掛けを行い、全員が発言できるよう促す。

公約について、候補者が皆、学校を良くするために掲げていることを理解し、候補者の立場になって、なぜその公約を掲げたのかを考えたい。

応援演説をするという設定で、それぞれの候補者の応援と、質疑応答での回答をロールプレイで行い、候補者の意図を考える機会としたい。

（3）教材について【教材観】

3名の候補者の応援演説が終了したのちに、模擬選挙を実施する。

実際に学校や公の選挙で使用する投票箱を用いて模擬選挙を行う。当落までは発表せず、皆の意見を聞いて、自分で判断して投票に臨んだことを評価する。

実際の生徒会選挙の時期や、地域で行われる公の選挙の時期に行い、社会科で行う主権者教育と関連づけて指導を行うことで、さらなる効果が期待できる。

日常の学校生活においては、特別活動、ＨＲ、各教科の中で、自己の考えを表出し、他者の意見を聞く機会を設け、認めあうことの大切さを指導していく。

**４　学習指導計画**

（1）全体計画　１時間（本時）

（2）準備　　　応援演説用シート、投票箱、投票用紙、投票台

（3）指導過程

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 段階 | 時間 | 学習活動（主な発問） | 予想される生徒の発言 | 指導上の留意点☆評価の観点 |
| 導　入 |  | １　生徒会選挙を経験したことがあるか聞く、その際に、何を基準に投票したのかを聞く。２　本日は、応援演説と模擬選挙を行うことを伝える。 | ・友達だから・しっかりしている・頭が良い・優しい | ・これまでの経験を振り返る。学校内での場面を思い出す。・生徒の発言を板書で残しておく。・関連行事がある場合、例を挙げて伝える。 |
| 展開 |  | 課題　それぞれの公約を行うと、学校はどのように良くなるのか考えよう。３　教材「生徒会選挙」を読む。・誰の応援をしたいか、3グループに分かれる。・グループごとに、それぞれの候補者の公約は、なぜ良いのか、学校はどのように良くなっていくのかを話し合う。４　応援演説、質疑応答・１グループ、質疑応答を含めて３分程度とする。・最後に、補足説明などないか確認し、1分のシンキングタイムを置いて、模擬選挙に移行する。５　模擬選挙・応援演説、質疑応答を聞いて、違うグループの候補者に投票して良いことを伝える。・誰に投票するかは、周囲に言わない約束を行う。・受付→投票用紙を貰う→記入台で記載→投票箱に投票する。 | ・制服がカッコ良いと登校が楽しくなる。・先輩たちが大切にしてきた制服を守りたい。・気温に合わせて選びたい。課題　他の人の意見を聞いて、どの公約が一番学校を良くしていくのか考えよう。課題　自分で誰に投票するのか決めて、実際に投票してみよう。 | ・学校を良くするための公約であることを前提に意見を出し合う。・誰も応援がいない候補者（または一人だけ）のグループには、教員が入る。・教科書(P54)に書き込む。☆自分の考えを書きグループ内で発表できたか。（知・技）・発表が難しい実態の場合は、穴埋め形式の台本を用意し、それを読むようにする。・デメリットの質問がでなかったら、教員から投げかけて、メリット、デメリットがあることを示す。・応援演説の内容を板書する。☆自分の考えを伝えようとする。（態度）・可能な限り、本物に近い環境設定、投票箱、投票用紙を準備する。☆自分と異なる意見を聞いて、学校を良くするためには、どの公約が良いのか考えている。（態度）☆自分の考えで投票することができる。（思・判・表） |
| 終末 |  | ６　まとめ・開票はその場で行わず、自分で公約について考えて、投票したことを褒める。・関連する、学校の生徒会選挙、地域の選挙について触れ、候補者の公約を聞いて、自分で考えて投票することが大切であることを伝える。 |  | ・投票結果が気になることは、主体的に選挙に係わっていた証拠だと褒める。・後日、開票結果を教えても良い。（話題提供として） |

（4）終末での教師の説話例

今日は、選挙について考えた。

皆さんも、〇月に学校の選挙がある。その時に外見や友達から頼まれたからという理由で投票するのではなく、それぞれの人がどのように学校を良くして行こうと思っているのか、それは自分も望んでいることなのかを、しっかりと聞いて考えることが大切。

また、皆さんは１８歳になると、公の選挙で投票する権利があります。その時も生徒会選挙と同じ様に、それぞれの人が、どのように良くして行こうと思っているかを知り、だれに１票入れるかを自分で決めることが大切。